

木材・合板博物館

PLY

木と人の素敵な出会いを探る

巻頭インタビュー ■ 第33回

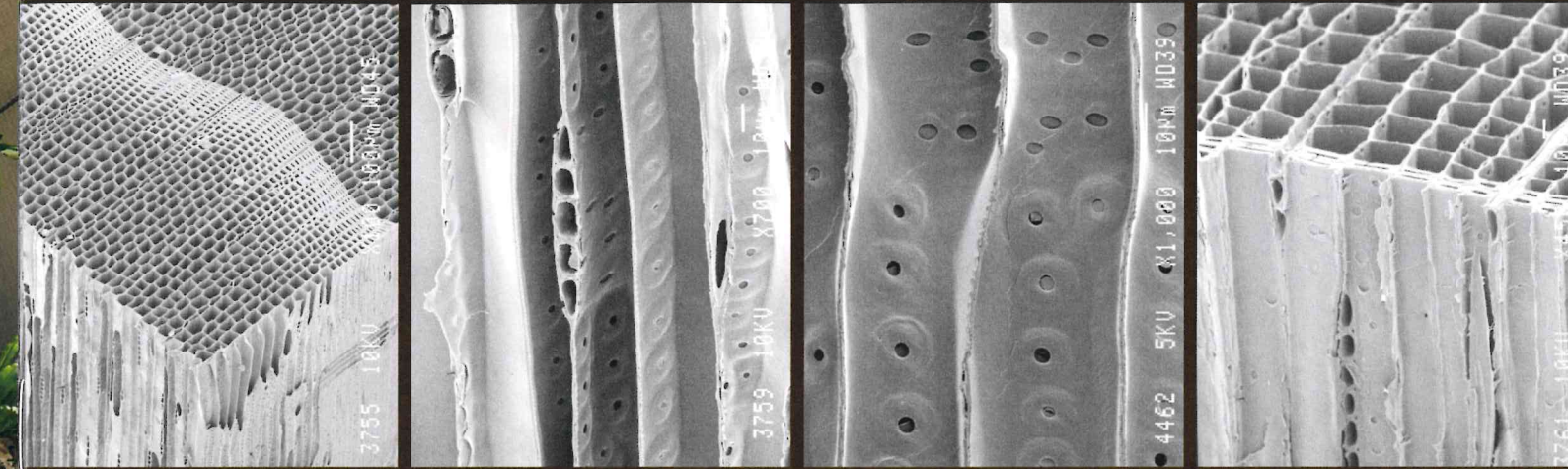
生命の森熱帯雨林 -Wonder of Rainforest-

清田義昭 千葉市動物公園 調整主任

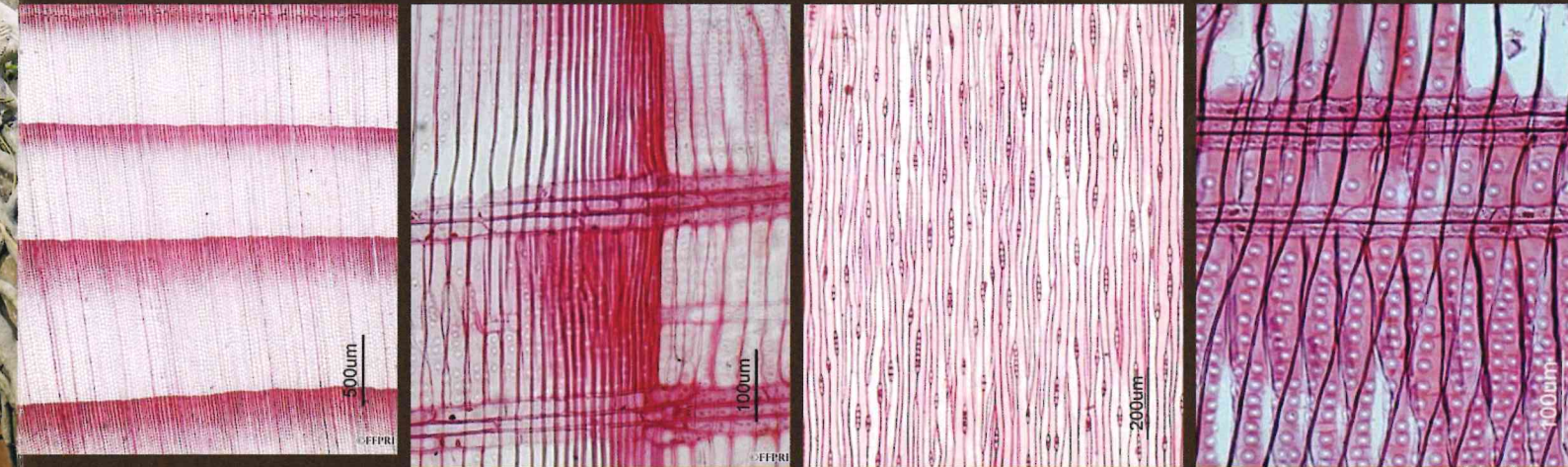
木アラカルト 21

寄稿 南洋材を求めて②

谷山 順一



PLY 木の誌上展覧会 第33回 走査電子顕微鏡・光学顕微鏡写真「ネズコ」



写真提供: 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所

ヒノキ科ネズコ(クロベ)属の針葉樹。日本にはこの一種が東北、本州および四国に分布し、クロベやネズなどとも呼ばれる。心材色が暗褐色で黒っぽいのでクロベスギと呼ばれることもある。高木で良材が得られるので江戸時代には、木曽の五木(ヒノキ、サワラ、アスナロ、コウヤマキ)の一つに数えられ、木曽を管轄していた尾張藩では禁伐を犯すと死罪に処せられるほど厳しく管理されていたと云われている。

ネズコ属の樹種は東アジアから北米に分布するが、中でも北米のベイスギ(ウェスタンレッドシーダー)は日本でも有名で、輸入された外構材は特に人気が高い。その理由は、ヒノキチオール(β -ツヤプリシン)を多く含み、耐久性が高いことによる。国産材ではネズコやヒノキにも主に心材中にヒノキチオールが含まれるが、量的にも多く耐久性の高さが評価されているのはむしろヒバであるとされている。

ネズコの仲間では、北米産のニオイヒバも庭園樹として親しまれている。

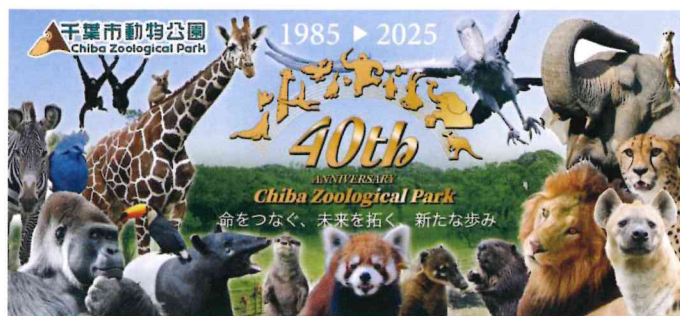
木材・合板博物館 副館長 平川泰彦

PLY (ぷらい)

PLYとは重ねるという意味があり、WOODを加えるとPLYWOOD(合板)を意味している。歳月や経験を重ねることの重要性和、木材が年輪を重ねて成長する姿も重ね合わせている。



写真2 見上げるほどのフタバガキの大樹（擬木）が来館者を迎える



動物公園は今年開園40年を迎えた



園内案内マップ



動物科学館Top

生命の森 熱帯雨林 —Wonder of Rainforest—

熱帯雨林はアフリカ大陸、東南アジア、中央・南アメリカ大陸の赤道付近に分布しています（図1）。私たちの生活を支えている食料、資源、エネルギーの多くを供給しているのはこの熱帯雨林です。地球温暖化防止という観点から、二酸化炭素の吸収を期待されている熱帯雨林は残さなければいけない。動植物のすみかを奪ってはいけません。今日語られる熱帯雨林のステレオタイプの保護メッセージ。千葉市動物公園の調整主任の清田さんは「それだけでは何も解決には向かわない」と言います。園には熱帯雨林学習に特化した展示施設「動物科学館」があります。熱帯雨林と動植物の関係を教えていただくため、現地を訪ね清田さんにお話を伺いました。

千葉市動物公園は昭和60（1985）年、動物科学館を含めた一部が開園、昭和63年には全面的な開園となりさらに平成3年、遊園地※1がオープンしました。平成17年に園の人気者となったレッサーパンダの「風太くん」を覚えていた方も多いいのではないのでしょうか。延べ3万人に迫る来園者を数える2025年3月、動物科学館がリニューアルされました。リニューアルの構想はどのようにスタートしたのでしょうか。

清田 「2000年頃のことです、飼育員だった私は施設セクションの上の者から、改修に関し意見書を提出するように言われました。そこで、「ここは熱帯の動物を扱っているから熱帯に統一し、ストーリー付けられる展示が良い、そこにシンボルツリーを立てたらどうか」という内容を書いたんです。その後リスタート構想が開始され動物科学館の改修検討の中で、当時の園長が以前提出した案の方向性を推してくれて、様々にブラッシュアップしていったという経緯です。」

開設当初の動物科学館の展示コンセプトはやはり熱帯雨林だったのですか。

清田 「まず、日本の動物園でこれだけの学習展示に特化した単体の建物を作ったのは千葉市動物公園が最初でした。単に娯楽の施設としてではなく、動物園の持つ教育的な側面についてきちんとやってゆ

こうという考えは当時からありました。

当時の展示内容は、鳥の飛翔の話であるとか、サル類の動きの違いであるとか、サル類の分類・進化などをパネルや模型を使って展示をしていました。

屋内の展示形態は温度管理が有利なので、結果的に熱帯の動物たちがここに集まってきました。動物の展示と共に熱帯の学習施設も当初からありました。今回のリニューアルにあたり、熱帯のストーリーをきちんと紹介することが目標でした。エコツアーをしながら熱帯雨林を学んでゆく、そういうストーリーを立ててを構築することから始まっています。展示の改修にはしっかりとストーリーが必要であり、学術監修は植物学が専門の湯本貴和先生（京都大学）、霊長類研究所の所長をやつてらした方で、動物にも造詣が深く当然熱帯雨林の研究もされた方です。また、表現に対する監修をお願いしましたのが、理科教育学が専門の盛口満先生（沖縄大学）です。展示に使用したイラスト（スケッチ）の一部も盛口先生にご提供いただいたものです。

我々動物園の持つ社会的使命に、「絶滅に瀕している野生動物を一旦お預かりして、環境が回復するまでの間、動物園で増やして繋いでゆく。」ということがあります。地球上に生息する生き物の約半数は熱帯雨林に生息しているといわれています。我々がどんなに



写真3 千葉市動物公園 清田調整主任

※1 遊園地（ドリームワールド）
遊園地は2014年閉園。2025年4月現在、「わくわくあにまるフィールド」というゾーン名で、乗馬体験やふれあい広場など動物と触れ合うイベントが開催されている。



写真1 擦りガラス越しに映し出された植物のシルエットの小道

第33回

PLY

巻頭インタビュー

熱帯雨林を学ぶ、学習展示施設 千葉市動物公園 動物科学館

子供達が大好きなゾウやキリン、そしてライオンなどはサバンナの生き物である。パンダの生息地は中国の山岳地帯だ。そして熱帯雨林。地球上の生き物の種の大半は、熱帯雨林に生息する動物だという。

サルの仲間や鳥類などの多くはここをすみかとしている。人は生き物たちのこの生息地を奪い、豊かな生活を享受する。人はそのことを日々の生活の中で忘れてしまう。

動物科学館の展示や映像をきっかけに、植物の繁殖や動物の暮らしに思い至った時、あなたは何かできるのか？ という問いに、自分なりの答えを見つけるのかも知れない。

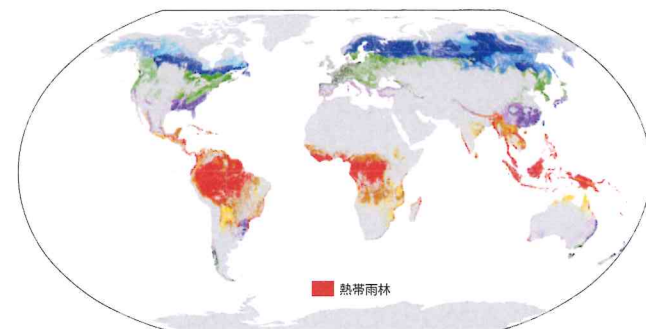


図1 熱帯雨林分布図
出典：FAO・UNEP 「THE STATE OF THE WORLD FORESTS 2022」より
（PLY編集部で凡例を追加）



写真6 ボルネオ島の熱帯雨林の自然環境が再現され、本物と見間違えるほど精巧に作られた造形のシンボルツリー「フタバガキ」と、周辺に配された今にも動き出しそうなリアルな動植物



写真7 熱帯雨林の基礎的な情報を知ることができる展示エリア

動物科学館展示室を廻る

それを繋いでいったとしても、熱帯雨林環境が回復しなければ、この事業は完結しない。ですから熱帯雨林の環境課題について、皆さんに知ってもらおうという事が、我々の大きな役割の一つです。」

開園当時の動物は？

清田 「千葉は近代酪農発祥の地なんです。そういった理由から、家畜の元になった家畜の原種ゾーンという展示がありました。バイソンや巻き角の野生のヒツジやスイギュウなどの展示です。当時はサルと家畜しかいないみたに抑えられていた。千葉の地域的な歴史の中でそういった展示が行われていました。開園からサル類の展示が多く、第2次オープン時にゾウ、キリン、シマウマといった有名なところが入ってきました。」

清田さんの案内で順路に沿って館内を廻ります。エントランスから続くフロアの奥、最初に我々を迎えてくれるのが人間を威圧する大樹です。(写真6)

●エントランスホール 「これがフタバガキの造形木(擬木)です。熱帯の樹木の雰囲気を感じさせる板根※2が特徴の樹高70mくらいになる高い木です。合板の材料になる木なんです。コンクリート型枠材として日本の高度経済成長を支えた木です。言い換えれば、戦後復興のために日本が東南アジアの森を丸裸に伐採していった象徴でもあります。」

最初はきつかけはこのようなエピソードからでしたが、調べていくとこの木の樹脂は香料の原料ともなり、奈良時代から日本に渡ってきたこともわかりました。ですからさまざまな時代を通して、そして現在も日本人が一番身近に接してきた熱帯雨林の木でもあるわけです。姿形だけではなく人との関係の歴史から日本人が熱帯雨林について学ぶ施設のシンボルツリーにふさわしい木です。」

木の周囲にはよく見ると様々な生き物がいます。「自然の熱帯雨林の森を切り出してきた」というコンセプトなので生き物に名札もつけていません。木々の

中にはどんな生命が暮らしているのか自分で探索してもらおう演出となっています。(清田)「コノハムシがいたり、カマキリがいたり、ヘビがいます。腐った肉の匂いがする世界最大の花なども見ることが出来ます。ここの巨木を廻る生命たちの世界です。」

●バードホール1階/2階 「開園当初からある空間ですが、今回のリニューアルに併せて大半の樹木を植え替えました。以前は観葉植物が主体だったのですが、今回は野生種を多く採用しました、一方で・コーヒーやアブラヤシなどのプランテーション植物も見られるようにしました。ここでは1日1回スコールが降ります(写真13)。このイベントは開園当初からあり、スコールは葉についた鳥の糞を洗い流すための役割もあります。よく見ると鳥やナメケモノなどが見つけられます。動物は自分で居心地の良い場所を見つけてそこで過ごすので、スコールになったら皆動き出しますよ。」

●熱帯雨林とは 「この部屋から熱帯雨林の基礎知識ということで本ストーリーが始まります(写真7)。数字のキーワードや誕生の歴史、世界の3大熱帯雨林の違いなどを切り口に5つのテーマで語られる内容を大型ディスプレイで見いただけます。全部見るとそれなりの時間がかかりますが、今日はここだけ見て帰っていただいて、また次に来た時には違うところを見ていただくことで良いと思います。」

次は「闇の世界に暮らす」というテーマでコウモリや原始的なサル類がいる夜行性動物の通路です。動物の展示は従来からそれほど変わっていないのですが、展示室と反対側の壁が黒一色だったものから、夜行性の動物の生態など説明する展示解説の壁になっています(写真4)。展示室ガラスへの反射を避ける工夫など、試行錯誤があったそうです。苦勞の甲斐あって博物館や美術館に居るような心地よい演出となっています。こういったデザインの細部にまで拘っていると思う展示は、館内の至る所で見ることが出来ます。これは清田さんやプロジェクトチームの、「メッセージを伝える」手段にかけた熱意と工夫を感じさせるものです。

音を 感じる

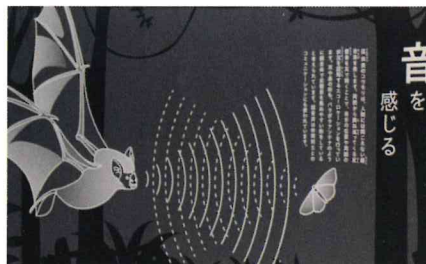


写真4 暗所での展示壁面 ※明るく調整しています



写真5 現代の私たちの生活の中には、熱帯雨林由来のものがたくさんある。

●人が森にできたこと 「ここでは人はこれまでに森とどうつきあって何をしてしまったのか、というストーリーを展開しています(写真8)。プロジェクトチームの中で、産業革命や戦争から始めるのはやめよう決めました。先ほどのフタバガキの木の話の他に、クロープ※3という大航海時代に唯一の産地であった東南アジアのモルッカ諸島の権益をめぐる戦争の火種となったスパイスが、既に約千年前の奈良時代に日本に入ってきています。」

ヨーロッパには金と同じ価値で取引されたコショウがインドから入ってきたり、古代からグローバルゼーションがあった。その中に熱帯雨林があつて、人間社会の発展があつたのです。そこに現地の人たちの生活もあるわけです。交易をしていたということは現地の経済活動として成立していたわけで、当時は今言われるような「一方的な搾取」というような姿ではなかったはず。それがどこかで狂ったんです。ですから熱帯雨林の消費は良くないと、二元的な考え方や主張はしたくありません。」

向かい側のこの展示模型は今朝のあなたの食卓はどんなでしたか、これらは皆、熱帯雨林の産物ですよ、という展示です(写真5)。このような食料だけでなくスマートフォンなどに使うレアメタルを掘り出すために、ゴリラの森が破壊されています。」

●人が森にできること 「ここは人は森に何ができるかという、我々動物園が何をしているかという話です。我々は種の保存のため未来へ動物を繋いでゆき

※3 クロープ
フトモモ科の常緑樹のつぼみから作られるスパイス。

※2 板根
板を立てたような形をした樹木の根。

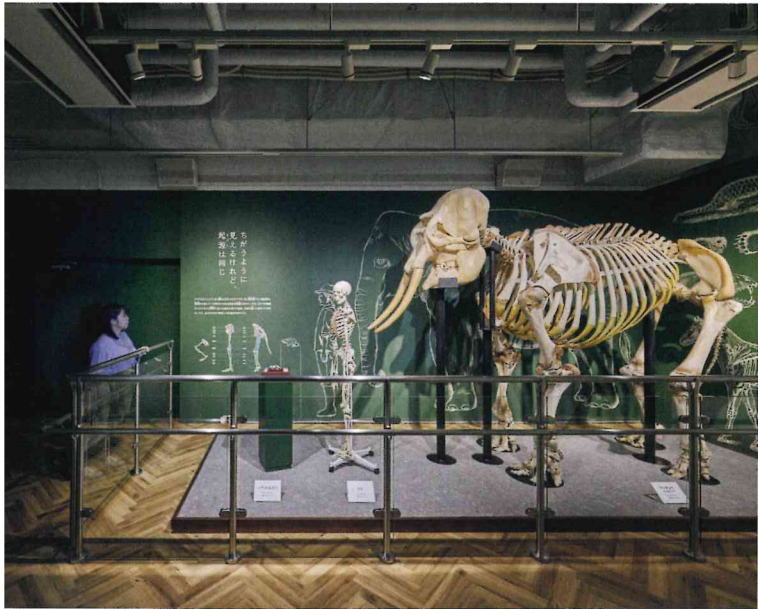


写真15 ネズミ、ヒト、アジアゾウの骨格標本



写真14 森の最下層の「林床の世界」展示
天井の映像を見るために寝て見るためのソファが用意されている



写真13 熱帯雨林特有の「気象現象」 「スコール」が始まると湿度が一気に上昇するのがわかる

館の至る所に見られる展示デザインのこだわり



写真8 熱帯雨林を消費してきた歴史を表す少し怖い展示



写真9 人が森にできることの部屋は明るい学習室の演出



写真10 明るいデザインが導線を飾る



写真11 マーモセット類の展示通路、コーナーサインがおしゃれ



写真12 通路とワークスペースを隔てる仕切壁のデザイン

「清田 難しいです。動物園って子供のものというイメージがありますが、子供目線で何かを説明しようとする、表層的になつてしまふところもあります。ですから、今回は中学や高校の生徒を対象にした説明レベルに切り替えています、小学校の児童を切り捨てたということではありません。学校の先生や保護者の方が、子供たちに説明できるそういう展示にしよう、ということを取り組みました。子供って、子供だましを見抜くんですよ。子供向けに内容のレベルを下げる、少し年齢を重ね思い返した時、「子供扱いされていた」と思います。一方で難しいんだけど、手を抜かなけ

「清田 難しいです。動物園って子供のものというイメージがありますが、子供目線で何かを説明しようとする、表層的になつてしまふところもあります。ですから、今回は中学や高校の生徒を対象にした説明レベルに切り替えています、小学校の児童を切り捨てたということではありません。学校の先生や保護者の方が、子供たちに説明できるそういう展示にしよう、ということを取り組みました。子供って、子供だましを見抜くんですよ。子供向けに内容のレベルを下げる、少し年齢を重ね思い返した時、「子供扱いされていた」と思います。一方で難しいんだけど、手を抜かなけ

「清田 難しいです。動物園って子供のものというイメージがありますが、子供目線で何かを説明しようとする、表層的になつてしまふところもあります。ですから、今回は中学や高校の生徒を対象にした説明レベルに切り替えています、小学校の児童を切り捨てたということではありません。学校の先生や保護者の方が、子供たちに説明できるそういう展示にしよう、ということを取り組みました。子供って、子供だましを見抜くんですよ。子供向けに内容のレベルを下げる、少し年齢を重ね思い返した時、「子供扱いされていた」と思います。一方で難しいんだけど、手を抜かなけ

「清田 難しいです。動物園って子供のものというイメージがありますが、子供目線で何かを説明しようとする、表層的になつてしまふところもあります。ですから、今回は中学や高校の生徒を対象にした説明レベルに切り替えています、小学校の児童を切り捨てたということではありません。学校の先生や保護者の方が、子供たちに説明できるそういう展示にしよう、ということを取り組みました。子供って、子供だましを見抜くんですよ。子供向けに内容のレベルを下げる、少し年齢を重ね思い返した時、「子供扱いされていた」と思います。一方で難しいんだけど、手を抜かなけ

「清田 難しいです。動物園って子供のものというイメージがありますが、子供目線で何かを説明しようとする、表層的になつてしまふところもあります。ですから、今回は中学や高校の生徒を対象にした説明レベルに切り替えています、小学校の児童を切り捨てたということではありません。学校の先生や保護者の方が、子供たちに説明できるそういう展示にしよう、ということを取り組みました。子供って、子供だましを見抜くんですよ。子供向けに内容のレベルを下げる、少し年齢を重ね思い返した時、「子供扱いされていた」と思います。一方で難しいんだけど、手を抜かなけ

「清田 難しいです。動物園って子供のものというイメージがありますが、子供目線で何かを説明しようとする、表層的になつてしまふところもあります。ですから、今回は中学や高校の生徒を対象にした説明レベルに切り替えています、小学校の児童を切り捨てたということではありません。学校の先生や保護者の方が、子供たちに説明できるそういう展示にしよう、ということを取り組みました。子供って、子供だましを見抜くんですよ。子供向けに内容のレベルを下げる、少し年齢を重ね思い返した時、「子供扱いされていた」と思います。一方で難しいんだけど、手を抜かなけ

「清田 難しいです。動物園って子供のものというイメージがありますが、子供目線で何かを説明しようとする、表層的になつてしまふところもあります。ですから、今回は中学や高校の生徒を対象にした説明レベルに切り替えています、小学校の児童を切り捨てたということではありません。学校の先生や保護者の方が、子供たちに説明できるそういう展示にしよう、ということを取り組みました。子供って、子供だましを見抜くんですよ。子供向けに内容のレベルを下げる、少し年齢を重ね思い返した時、「子供扱いされていた」と思います。一方で難しいんだけど、手を抜かなけ

「清田 難しいです。動物園って子供のものというイメージがありますが、子供目線で何かを説明しようとする、表層的になつてしまふところもあります。ですから、今回は中学や高校の生徒を対象にした説明レベルに切り替えています、小学校の児童を切り捨てたということではありません。学校の先生や保護者の方が、子供たちに説明できるそういう展示にしよう、ということを取り組みました。子供って、子供だましを見抜くんですよ。子供向けに内容のレベルを下げる、少し年齢を重ね思い返した時、「子供扱いされていた」と思います。一方で難しいんだけど、手を抜かなけ

「清田 難しいです。動物園って子供のものというイメージがありますが、子供目線で何かを説明しようとする、表層的になつてしまふところもあります。ですから、今回は中学や高校の生徒を対象にした説明レベルに切り替えています、小学校の児童を切り捨てたということではありません。学校の先生や保護者の方が、子供たちに説明できるそういう展示にしよう、ということを取り組みました。子供って、子供だましを見抜くんですよ。子供向けに内容のレベルを下げる、少し年齢を重ね思い返した時、「子供扱いされていた」と思います。一方で難しいんだけど、手を抜かなけ

「清田 難しいです。動物園って子供のものというイメージがありますが、子供目線で何かを説明しようとする、表層的になつてしまふところもあります。ですから、今回は中学や高校の生徒を対象にした説明レベルに切り替えています、小学校の児童を切り捨てたということではありません。学校の先生や保護者の方が、子供たちに説明できるそういう展示にしよう、ということを取り組みました。子供って、子供だましを見抜くんですよ。子供向けに内容のレベルを下げる、少し年齢を重ね思い返した時、「子供扱いされていた」と思います。一方で難しいんだけど、手を抜かなけ

「清田 難しいです。動物園って子供のものというイメージがありますが、子供目線で何かを説明しようとする、表層的になつてしまふところもあります。ですから、今回は中学や高校の生徒を対象にした説明レベルに切り替えています、小学校の児童を切り捨てたということではありません。学校の先生や保護者の方が、子供たちに説明できるそういう展示にしよう、ということを取り組みました。子供って、子供だましを見抜くんですよ。子供向けに内容のレベルを下げる、少し年齢を重ね思い返した時、「子供扱いされていた」と思います。一方で難しいんだけど、手を抜かなけ



清田 義昭 (きよた よしあき)
千葉市動物公園 調整主任
●1964年千葉県生まれ
●1987年千葉市役所入庁、飼育員として千葉市動物公園へ配属
●2016年～市内公園管理部門
●2019年～動物公園(施設部門)
●2018年～副園長を経て現在に至る



〒264-0037 千葉市若葉区源町 280番地
開園時間：午前9:30～午後4:30分
(入園は午後4時まで)
休 園 日：毎週水曜日/年末年始
※詳しくはWebサイトで確認して下さい
千葉市動物公園

掲載写真の多くは、千葉市動物公園からご提供いただきました。

寄稿 南洋材を求めて②

木材輸入を支えた総合商社の最前線

●本誌PLY31号で「寄稿 南洋材を求めて」を紹介させていただきました。(内容は右記2次元コードからお読みいただけます) 60年代、太平洋戦争からの復興途上にあった日本は南洋材をめぐる木材輸入企業が競って現地の人を送った時代でした。その地で交渉の最前線に立った谷山順一さんが、さらに詳細な当時のレポートをまとめてくださいました。そこで今回、第2回(続報)として前回記事では紹介できなかった、その頃のマレーシアの生活などについてフォーカスした内容で紹介します。PLY31号はこちら



マレーシア駐在時代 町の治安

66年のサンダカンの治安は地元警察(Constatable)により確保されていた。コマースタルタウンのサンダカンの町は、ほとんどが商人・公務員などとその家族の中国人、それに銀行・商社、などに務める白人が少々で、農民・漁民・仲買人などのバジャオ族、ドゥスン族などの原住民がパサルにたむろしていると云ったところで、全く不安を感じない日々で、平和そのものでした。1963年サバとサラワクがマレーシアの州となって加入した際、インドネシアと敵対関係(Confrontation)に入り、63年からタワオやタラカン周辺のジャングルで2年間ほど武力衝突が起こりましたが66年前にはその出来事は終わっていました。

生活全般

英国人は自分のあたらしい領土には競馬場(ターフクラブ)、ゴルフクラブ、テニスコートを作り、クラブ制を以て生活を楽しむといわれてきました。北ボルネオ会社には歴史的にジェセルトンに競馬場を、ゴルフ場をジェセルトン、クダット、サンダカンの4か所に、またサンダカンには市庁舎前の最高の場所にテニスコートが4面存在していました。

古い写真によるとジェセルトンには飛行場の近くに競馬場がありましたが、滑

走路の拡張に伴い閉鎖され、わたしがみたのは雑草に覆われただっ広い空き地になってました。70年代後半(でしたか)時の政権のトップがターフクラブの再開を考え、新たに立派な競馬場をコタキナバルから30キロ北のトアラン(Tuaran)に建造、馬が走ったかどうか知りませんが、まさしくホワイトエレファントになっているようです。

タワオ(Tawau)という町は、1890年に凡そ200人のフィリピン系の原住民が定着したのが始まり、その後中国人が入植し、1900年代のはじめから日産系の久原農園がゴムとマニラの原料ケンブ(Kemp)を、三菱系の窪田農園がココナッツのプランテーションを開始、その後タワオ地区のシアミール(Siamir)島(現在はインドネシア領)でカツオ漁業を開始、いうなればタワオの町あるいはタワオ地区は日本人によって大きく開発された町と言っても過言ではないのです。

【ゴルフ】わたしは66年赴任と同時に安部所長に誘われて、KBD社の店先に並ぶ、ゴルフのハーフセットを手に入れ、サンダカンの郊外の海辺の近くに設けられた9ホールのゴルフ場のメンバーとなりました。そのゴルフ場は、一定の広さの雑草を刈っただけのもので、雨が降れば水浸し、乾いてもフライボールは泥に没する状態、オービーとなれば完全にロストボール、かまぼこ状に造られた小さなグリーンも思った方向に転がすのに苦労する厄介モノでした。メンバーはほとんど英国人あるいはその夫婦、会員



フィリピンで撮影(1968年)

用だったのです。みんなの、若い日本人に対する、暖かい笑いのなか、苦笑いしながら自分を取り繕いました。恥ずかしくてあまり言うことではありませんが、これがゴルフから離れることになる理由なんです。

【テニス・水泳】コタキナバルには素晴らしい立派な白砂のタンジショナルという名の海岸がありました。初めてサバに來られた日本人はその広大さにド肝を抜かれることになりました。中国人は総じて水泳というスポーツになじまないように、決められたしきたりの中で宗教的かどうか分かりませんが毎年、特定の日に海に入るようでした。英国人(白人)たちは日光浴を好みますが、熱帯の日照は強すぎるので、海岸で陽を浴びるようなことはしないようでした。またサバ住民はクラゲの被害を避けるのか、日本の夏の海水浴の賑わいは全くなく、ただただ波の音だけの静寂の海に拍子抜けしてしまいます。

わたしはサンダカンのリクリエーションクラブに新たにできた短水路プールで当時チャータード銀行(Chartered Bank)のスコットランド人の若い副支店長と一緒に町の子どもたちを呼んで水泳教室をひらいてやりました。中国人の大人はまず泳ぎには来ず、逆に子供はいっぱい、オーストラリアやニュージーランドに留学しているお金持ち家族の学生は、向こうで習っているのか、とびぬけて上手でした。

町の真ん中の市庁舎の前の4面のテニスコートはおそらく63年の独立にとも

なって減っていく英国人の家族のクラブメンバーで賑わっていたのですが、いまは閑散としてインド人の数人の常連と、おそらく官庁のオフィスで英国人の部下だった中国人が土曜日の午後或いは日曜日に集まって静かにプレーしているだけ、わたしもそのメンバーに入らせてもらい、これまた静かにプレーさせてもらいました。物音のしない日曜日の午後、ボールとボールを打つ音だけが街に消えていきました。

【麻雀】日本人のアフターファイブの娯楽は、麻雀でした。ただ日本と違うことは、年中24℃から32℃の毎日。サンダカンは北緯6度くらいにありましたが冬至・夏至のときの遷りはありませんでした。日照時間もこれまで年中変わらず、日没は午後6時くらい、そして勤務時間は暑さを避け、午前8時から午後4時まで。麻雀はアフターゴルフのあとシャワーと夕食を済ませたあととなります。ただし雨の午後はアフターフォーからビッタバッタのマージャンです。

当時各社の駐在員は1〜2人。多くても3人、従い他社の誰かに入ってもらって卓を囲むことになります。当然麻雀が好き・嫌いの差により強いグループと弱いグループに分かれます。わたしは伊藤忠に入社して初めてルールと計算の仕方を教えてもらったビギナー。年少者のわたしは他商社の歳上の方々の仕事のお話を聞くことが楽しくて仕方ありませんでした。お名前が申し上げませんが、東洋綿花、兼松、日比さんの駐在員の方々がメンバーでした。

【映画観賞】66年のサバにはまだテレビがなく、映画館にはよく足を運びました。6時からの入れ替え制でした。サンダカンにはRexとCapitallの2軒の映画館がありました。安部所長とふたり、いかにも清潔とは言えない椅子に掛け、ヒマワリの種を食べながら(食べるのではなく、歯でカラをあまがみしてペッと掃き出し身をいただく……大谷さんもその技をマスターしているのか、いないのか)、ブルースリーのカンフー映画などの香港映画をよく観たものでした。

【阿チャン】忘れてならないのが1962年初代宮所長の時からサンダカン事務所の使用人として勤め続けてきたハウスメイドの阿チャンです(66年時点で45歳くらいでした。彼女は香港政庁発行の正式なハウスメイドのCertificate and Sabaの就労ビザをもったプロの家政婦です。我々伊藤忠駐在員の生活に必要な一切の仕事をしきつてくれました。炊事、洗濯、掃除、ベッドメイキング、食材買い物、鶏のさばき、料理(中華と和食)などすべてです。駐在員の規律にも目を通し、勤務中の伊藤忠の駐在員は、他商社とは比較にならないほどピシッとアイロンのかかった半袖のワイシャツ、白あるいは紺色の半ズボン、白の長網ソックス、磨かれた革靴で有名でした(探検帽はかぶったら、ターザン映画に出て来る探検隊員そのものでした)。若い駐在員はチョットけむたがるところもありましたが、駐在を終えて帰国する時には、自作のえびせんべい(ハーペンと言って、油で揚げるとあつと驚くほど



フィリピンで撮影(1968年)

大きさに膨れ上がる白いエビせんべい)をお土産としてわたしてくれた、氣立てのいいメイドでした。余談になりますが、わたしたちが付き合った裕福な中国人の家庭には、必ずと言っていいほど、ひとり、ふたりのプロの家政婦がいました。彼女たちは若くしてその家庭に入り、ご夫人の赤子の世話から始まってほぼ一生その家庭のメンバーとして生きていく、そんな習慣(制度)があり、阿チャンもTeeck Guan(テックグァン(漢字忘れしました))という名家からトレードされて1962年から伊藤忠のサンダカン家におさまったのです。

一つの逸話が残っています。その青年協力隊のひとりがりクンダサンにとどまり、現地の女性（ドウスン族）と結婚、サバにはなかったキャベツを紹介、生産・増産に成功し、その地域の農民の豊かな生活に貢献しました。農民はその協力隊員の貢献に感謝し、クンダサンを挙げての年一度の「キャベツ祭り」を催してい

た。当時、我々駐在員は、原木船積船に船員用として常備している米を、彼らから幾らか分けて貰い、陸稲に混ぜ合わせたものを主食としていました。またパパール（Papua）と内陸のタンブナン（Tambunan）で現地住民がコメの水耕栽培を行っていました。66年時代ではそれをパサルで見かけたことはなかったようでした。

日本政府のJICAが海外青年協力隊をサバに農業指導を目的に派遣を始めたのが1964年ごろからと記憶しています。そして稲作の日本式農法の指導あるいは病虫害の研究などをサバの西海岸の各地に広げていきました。現在はジャポニカ米かどうかは分かりませんが、日本人の嗜好に合うコメを作ろうとする米作農家もできています。コタキナバルには現在3軒の回転ずし屋が店出しています。ドコモ中国人や原住民で、はやっています。寿司と言えば新鮮な具と美味し

いお米があれば、現地の誰でも簡単ににぎれます（おいしい、まずいを気にしなければ）。この回転ずしのお米も、サバの水耕米の良さそうなのを選んだだけだそうです。

「食」という行為は、時代により、場所により、食糧の生産の多寡により、料理の変化により、もっと言えば料理人の腕前により変化していきます。駐在当初の独身時代の食事は昼と晩とも社宅兼事務所で摂りました。考えるに英国人は街の食事処で食べる事をあまりせず、クラブを作りそこに同国人が集まり食事をするというパターンがあったからかもしれませんが、とにかく当時は街にはちゃんとしたレストランというものがありませんでした。一方先に記した女中の阿チャンの料理の腕前はたいしたもの、社宅での食事に不満がなかったからでもあります。朝は街角の開放的なコーヒーストップで半熟卵とパンですませましたが、昼・晩の食事が食べれるいわゆる「街中華」なる手ごろな食事処はありませんでした。

食べ物と食生活



谷山 順一（たにやま じゅんいち）

昭和 39年	伊藤忠商事株式会社入社
41年	シンガポール（サンダカン支所）駐在
43年	シンガポール支店駐在（サンダカン事務所長代理）
51年	リンバン（サラワク）駐在
53年	コタキナバル事務所長
56年	伊藤忠商事株式会社大阪木材部南洋課長
39年	同社物産部門企画管理部長
平成 8年	同社代表取締役常務就任
11年	同社代表取締役専務就任
12年	日本木材輸入協会会長就任
13年	伊藤忠建材株式会社代表取締役社長就任
17年	同社代表取締役会長就任

※掲載した写真について：ここに掲載したのは1968年のフィリピンの写真です。谷山さんが赴任していた当時のマレーシアには、写真にあるような大型林業機械は普及しておらず、出材はトラックやトラック程度でした。谷山様のレポート全文は、今後、木材・合板博物館のWebサイトで公開を予定しています。

短い駐在期間と帰国

ます。

わたしは2年の駐在期間を満たすことなく、1年半ほどの駐在で帰国命令をもらいました。理由もはっきりせず、やや不満気味の帰国でした。1年半の間にサンダカンでの業務だけでなくサバ、サラワクの主な木材の積み地での経験、客先への挨拶も終えて、これから本格的に始動開始と思っていた矢先、先任の安部所長より先の帰国、何かあるのではないかと思いながらの帰国でした。

いまだに、もう一度食べたいと思っている料理に（阿チャンもつくる）カンコンブラチャンという野菜の炒めモノがあります。カンコンとは日本で栽培されるようになった空心菜です。南方の国々では栽培でなくて、どこにでも生えている



フィリピンで撮影（1968年） ※人物は谷山様ではありません

PLY 第33号 2025 AUTUMN

【発行日】 2025年9月15日
 【発行】 木材・合板博物館
 〒136-8405
 東京都江東区新木場1-7-22 新木場タワー3F・4F
 TEL 03-3521-6600 / FAX 03-3521-6602
 E-mail info@woodmuseum.jp
 【発行者】 吉田 繁
 【編集】 佐藤雅俊（編集長）
 PLY 編集委員会
 【デザイン】 株式会社デジタルアート

編・集・後・記

我が国の木材産業に多大な貢献をした南洋材、その産地である東南アジア地域の森林は、熱帯雨林と呼ばれています。その特徴は、温暖で降水量の多い地域（その他、中部アフリカや中南米）にあり、生物多様性が豊かで、複雑な生態系を有し、全世界の生物種の半数以上が生息していると言われています。巻頭インタビューでは、千葉市動物公園にリニューアルオープンされた動物科学館（学習展示施設）において、熱帯雨林における動植物の関係を森林の視点から捉えた新しい体験型展示が行われ、従来の動物園とは異なった学びの場が提供されています。その展示の趣旨と動物科学館の概要について、詳しくお話を伺いました。木アラルカルトでは、南洋材に関連する様々な話題を、木材の輸入が盛んだった時期にご活躍された先達からご紹介をいただきました。（S）

木材・合板博物館のご案内

<https://www.woodmuseum.jp/>

【開館時間】 10：00～16：30（最終入館時間16：00）
 【休館日】 土曜日、日曜日、祝日、年末年始
 【所在地】 東京都江東区新木場1-7-22 新木場タワー3F・4F
 TEL 03-3521-6600 / FAX 03-3521-6602

入館無料



facebook



HP



Map

米の栽培

サバでは焼き畑移動農法で陸稲（お

雑菜です。それをブラチャンというペー
 スト状の発酵調味料で炒めるのです。プ
 ラチャンというのは毎年4〜5月にサバ
 の西海岸に波に乗ってドツとやってく
 る、オキアミ（サクラエビのウンと小型
 な蝦）を、そのまま発酵させたものです。
 季節になると村の漁師が獲ってきたもの
 を、ビニール袋に分けて街の子どもたち
 が道端で、お小遣い目当てに、売り歩く
 ……ひとつの風物詩なんです。市民はそ
 れを家で佃煮にして食べます。ブラチャ
 ンはとにかく鼻がヒン曲がるほどの臭み
 を放つ調味料なので、日本人はとてもそ
 の臭みに耐えられません。しかし、しか
 しです、そのブラチャンに唐辛子を加
 えたもの（サンバルブラチャンといいま
 す）で、空心菜を炒めると、その臭みが
 不思議にまるやかな甘みを伴った味を醸
 し出すのです。唐辛子がいいるので随分
 ピリツと辛いのに、不思議と甘みも感ず

るのです。不思議な炒め物でした。もち
 ろん炒め過ぎはだめです。まだ空心菜の
 シヤキシヤキした歯触りが必要なのは言
 うまでもありません。

現地で親交を結ぶにはその地元の「食」
 をいただくこと、と言われます。わたし
 は如何物食いと言われるほどすべての食
 べ物を好き嫌いなく頂きます。中華料理
 は当たり前、ピリ辛のマレー料理、原住
 民の蛆虫料理、カレー料理なんでもいた
 だきます。その食の許容範囲が広いこと
 に自我自賛しております。駐在員みんな
 と大きな丸テーブルで中華料理を囲むと
 き、わたしはみんなに、「日本で食べれ
 べれないモノをオーダーしようではない
 か」と提案したものです。